

第9回伊賀市総合計画審議会（9/25）

No.	施策番号	施策キーワード	意見	当日の事務局回答	回答	担当課
1	1-3 3-2	健康づくり 農業	食育については平成17年に食育基本法が制定され、各自治体における推進計画の策定が進められており、三重県内でも19市町が策定済みだが、伊賀市はまだ策定していない。ぜひ4年間の間に取り組んでいただきたい。	担当部局に確認させていただく	現在、市内小中学校の給食において、市内産の農畜産物を使用した「伊賀スマイル給食」実施し、「食育」の推進と地産地消に向けた取り組みを行っています。「食育推進計画」の策定については、健康推進課等の関係部署と協議していきます。	健康推進課 農林振興課
2	3-1	観光	観光について忍者のことは書かれているが、芭蕉さんや荒木又右衛門の鍵屋の辻などについては触れられていない。観光は忍者だけではないという声もよく聞く。一言忍者以外についても入れていただきたい。	忍者を切り口にと考えているが担当部局と話をさせていただく	伊賀市には沢山の観光資源、地域資源があり、それらは大切な観光コンテンツだと認識しています。一方で市外や海外から伊賀市に誘客する場合には「忍者」というキーワードが大きなセールスポイントとなる事も事実です。伊賀市シティプロモーション指針においては伊賀市を知ってもらうきっかけ（入口）を忍者と捉え、忍者を中心に歴史・自然、文化、伝統、特産品など伊賀市の有する魅力的な地域資源を伊賀市外に十分にプロモーションすることで、伊賀市外の方々から伊賀市の魅力に気づき、関心を持ち、実際に伊賀市に来てもらうための取り組みが必要としており、それを踏まえた表記となっています。 また、近年の観光ニーズとしては見聞だけでなく体験を通じて地域の観光資源を体感することが求められていますので、「いがぶら」など体験コンテンツを通じてそれらの観光資源を発信、体感していただきたいと考えています。	観光戦略課
3	2-5	一般廃棄物	ゴミ処理については6年間の契約で民間委託しているが、その後のことはどうなるのか。4年間に於いて整備計画の方針などを検討すると書いておいてもらう必要があるのではないか。	担当部局に確認させていただく	可燃ごみの持ち込みについては、地元と15年間の協定があります。今後のごみ処理は、2013(平成25)年度の廃棄物処理施設の在り方検討委員会の答申を踏まえ、方針を定めることとしています。また、資源ごみについては、プラスチックごみの一括回収など国の政策を注視しながら今後の方針を決定していく必要があると考えています。	廃棄物対策課

No.	施策番号	施策キーワード	意見	当日の事務局回答	回答	担当課
4	全般	全般	33ページのPDCAサイクルの項目の中で活動指標を毎年見直すと明記したのはいいことであり、今回のコロナのような大きな変動があった際には柔軟に対応できることになるだろう。だからこそ、コロナに対する対応について、全体では書いてあるものの個々の施策や指標については触れていないものが多い。指標について今年の数字だけがへこんでいるものや、一度マイナスになって戻る見込みのものなど、整理が必要ではないか。	それぞれの施策でコロナ対策を書ききれていないという指摘はいただいていた。	コロナについて、医療、健康づくり、危機管理、人権尊重・非核平和、情報化等の施策で記載していますが、指標の考え方で、コロナを考慮した目標値を設定することは現時点では難しいと考えます。	総合政策課
5	全般	全般	指標について伊賀市としてみているが、全国的に見てその数値がどのような評価になるのかの視点が抜けている。すべての項目でやる必要はないが、国や県と比較した結果の評価もほしい。	施策によっては指標のものさしが思いつかないと相談も受けている。ご指摘のような視点で担当部に確認させていただく	他自治体の状況については、各部署で一定把握しており、全国的な視点で比較した評価が必要な事業もあると考えますが、本計画は、伊賀市独自の計画であるため、他自治体の数値は併記しませんが、事業評価の段階で必要に応じ比較することは可能と考えます。	総合政策課
6	はじめに	今後の課題	現状では新型コロナ対策が課題となるが、4年間の中で考えれば来年にはコロナの対策は落ち着いているかもしれず、長期的に見ると個別のコロナ対策というよりは大きなくくりとして新たな危機への対応としてとらえたほうがいいのではないか。	コロナ対策と限定して書くと問題があるのもわかるが、現時点でコロナをほかして書いても伝わらないと思う。「新たな危機」としての記載について検討させていただく	「No.4」と同じ	総合政策課
7	はじめに	社会経済情勢の変化	人口ビジョンを見ると若者の減少分はほぼ外国籍の人の増加がうめており、多文化共生というより外国籍の人といっしょにまちをつくっていくという視点が必要ではないか。19ページからの人口に関する資料について外国籍の方の分析がない。	外国籍の方をまちづくりの担い手として、同じように参画いただくという視点は必要だろう。全体を通じて記載していきたい。	25ページ「4. 今後の課題 ②持続可能な開発目標（SDGs）」の中で、外国人住民の割合が高く。定住化が進んでいることが本市の大きな特長であり、本市特有の「多様性」を活かした、様々な立場である人々が地域社会の一員として活躍できる「包摂性」のある社会をめざし、SDGsの取組を推進していくことが求められるとし、第3次計画のテーマの一つに「「オール伊賀市」の実現」を掲げ、多様な主体との連携により、誰一人取り残さない持続可能な伊賀市を実現することとしています。	総合政策課

No.	施策番号	施策キーワード	意見	当日の事務局回答	回答	担当課
8	6-5	定住・関係人口	忍者はどちらかというとシティプロモーションとして活用していくという位置づけの方がわかりやすいのではないかな。	事務局としても悩ましいが、ある程度伊賀ならではの計画として個性を出すには、伊賀ならではのキーワードがちりばめられたほうが良いとの考えもある。文化芸術の個人名についても具体的なイメージがわくようにとの思いもある。もう一度担当部局に確認させていただく。	「No.2」と同じ	総合政策課
9	6-3	文化・芸術	文化芸術のまち・ひと・しごと創生の視点で何名かの個人名が具体的に挙がっているが、それでは挙がっていない人へのリスペクトはどうなるのか。		当市は、多くの文化人・芸術家にゆかりがあります。それらの人全てを列挙することは難しいため具体的にイメージしてもらえような人物を提示しました。もちろんそれら全ての人に対してリスペクトの念をもっております。	文化交流課
10	5-1	人権尊重・非核平和	男女共同参画について、若い人は変わりつつあるが、自治会や地域社会においてまだまだ固定的役割分担意識が抜けきれない。その中で、今回男女共同参画に関する基本事業は1つにまとめられ、指標として各審議会委員会への女性登用率が掲げられているが、登用率を見ただけでどれだけ意識が変わってきたのかはわからない。目標の一つではあるだろうが、意識調査において男女の待遇が同じになってきたと感じる割合など他の指標も必要ではないかな。	ご指摘のように登用率で男女共同参画の意識が変わってきたことをすべてはかることは難しいと思う。一方で、指標となる数値は毎年度進捗状況をはかることができるものとしているため、意識調査は男女共同参画プランの策定に合わせた5年ごとしか調査していないため、指標にできないという事情がある。	左に同じ	人権政策課
11	5-1	人権尊重・非核平和	男女共同参画の指標で、会議への登用率を上げるのは簡単だが、本来は会議での発言数を指標にするなど女性がいていいような数え方はやめたほうが良いのではないかな、		女性の参加率を高めることは、女性の意見（発言）を出しやすい環境作りであり、女性の視点を生かした施策推進につながると考えています。まずは、女性の登用率をという上げるという目標に取り組めます。	人権政策課

No.	施策番号	施策キーワード	意見	当日の事務局回答	回答	担当課
12	全般	全般	今回の修正でもDXなどの言葉が新たに出てきたが、横文字が多すぎて分かりにくい。	計画の策定にあたっては自分たちの計画とするためになるべくわかりやすい表現にしようとは考えているものの、国から示されてくる課題としてsociety5.0やSDGs、DX、スマート自治体などの新しい考え方が示されてくる状況である。それらこれからの新しい考え方を取り入れずにまちづくりを行っていくのは難しく、一方でその言葉を日本語に置き換えようとするとかえってわかりにくくなる。	左に同じ	総合政策課
13	全般 戦略	全般 総合戦略	とある企業に話を聞いていると、伊賀市に新たに事業所を進出したことで200人ほどが移り住んできたが、そのほとんどは住民票を移していないそうである。そういった人たちにどうやって伊賀市の住民になってもらうかは大きな問題だろう。住宅建築の際には県では三重県の材木を利用すれば補助が出るなどインセンティブがあったりする。そういった伊賀市に住むことにメリットがあるような流れが作れたらと思う。	伊賀市に住む人に、伊賀市で働いてもらい行政サービスを受けてもらえるよう、市内の様々な人たちと会う機会をとらえて話をできればと思う。国勢調査と住民基本台帳の人口のずれも課題であり、伊賀市の住民の方には住民票を登録していただき行政サービスを利用してもらえるようにしていかなければならないだろう。	左に同じ	総合政策課
14	はじめに	今後の課題	コロナやSDGsなどへの対応も必要だが、現実の伊賀市の地域における活動の問題に対する方向性などの記述がないように思う。具体的には自治基本条例の改正の問題などについて、今回の計画の中でどうなるのかみえてこない。2022年に支所再編の話も聞いており、本計画の計画期間中だがどうもみえてこない。ふたを開けてみたら支所がなくなっていたではよくないだろう。そういった点について打ち出せないか。	自治基本条例については並行して協議を進めている。自治基本条例に関することは個々の施策に記載するというよりは全体を貫くしくみとして記載できればしていきたい。支所のあり方は、組織の形としては変わらないのかなと思う。	各施策の取組みにあたり、伊賀市自治基本条例（以下、「条例」という。）の基本理念に基づき、各主体の役割を記載しています。現在、条例の見直し検討を行っていますが、この基本理念は大きく変わるはないことから、総合計画への影響がないため、条例の改正については記載していません。また、支所は行政機構の一つであることから「7-3 組織・人事」の基本事業③の中で支所の再編を検討しますので、具体的な記載はしていません。	総合政策課

No.	施策番号	施策キーワード	意見	当日の事務局回答	回答	担当課
15	7-2	財政運営	公共施設の最適化計画について第2次計画の時点で方向性は出されていたと思うが、実行できていたのか検証したうえで残すべきものなくすべきものを判断していくことが必要だろう。もう少し明確なビジョンを定めるべきだと思う。	公共施設の最適化について、個々の施設名称が挙がってこないのがイメージしにくいかもしれないが、ここでは「伊賀市公共施設最適化計画」に基づいて取り組みを進めるとの表現としてあり、今回の計画では基本事業にかかわる関連計画がひもづけてあり、取り組み内容の詳細については関連する個別計画で記載するという組み立てとしている。	左に同じ	管財課
16	全般	全般	伊賀市の観光として忍者を取り上げるのも良いが、歴史や自然風土など精神性を学ぶものも多いと思う。そういった心の部分も伝えてもらいたい。	観光だけのアイテムでもないもので、精神性を学ぶ視点や健康づくりの視点など広く展開していければと思う。	忍術書には自然との向き合い方や心身の鍛錬や精神性に触れている記述も多くあります。忍者を切り口にして伊賀の生活文化や心構えを現代風にアレンジし、観光や教育、健康づくりなど様々な視点で活用・発信していきたいと考えています。	観光戦略課
17	全般戦略	全般 総合戦略	総合戦略の新たな視点の目標として「若者、高齢者、女性」とあえて「女性」がピックアップしてあったのに驚いたが、読んでいくと女性が活躍しやすい環境づくりを伊賀市が進めているんだなとわかった。しかし、今回この計画を読むまではそのように取り組んでいたことも知らなかったのでもう少しわかりやすく発信してもらえたらと思う。		女性が安心して働き豊かに暮らしながら活躍できる環境をつくることは、本市の地方創生の実現に必要不可欠なものです。ターゲットの明確化や多様なメディアを活用した発信により、市民に認知され実感できる取り組みになるよう努めていきます。	総合政策課
18	全般	全般	言葉の説明が第2次計画を見ると載っている。今回もある意味で新しい言葉や考え方の字引としてとらえてもいいように思う。	難しい言葉については、初めて出てきた箇所に説明を入れ、最後の巻末にも五十音順の用語集を載せる予定である。	左に同じ	総合政策課
19	5-1	人権尊重・非核平和	女性の社会参画について、男性の意識改革や社会の環境整備が重要なのはその通りだが、一方で女性でも会議や自治活動などに参加したから意識があるケースもあるので、女性も積極的参加する意識を持ってもらえたらと思う。	地域の課題として、計画で目指す男女共同参画の姿と乖離はあるので、その乖離をうめていかなければいけないと考えている。	左に同じ	人権政策課